

町民のみなさんと議会をつなぐ

# びっぷり議会だより

No. 127

令和8年5月



【表紙】 令和8年2月27日開催  
比布中央学校6年生「子ども議会」

P3 一般質問 スバリ！ここが聞きたい

植西 浩一 議員 / 遠藤 ハル子 議員  
佐藤 良彦 議員 / 八巻 良博 議員

P7 新年度各会計予算審議

P14 意見交換会「議会と話をうろ」

P16 比布中央学校6年生「子ども議会」

# 議案30件を審議 原案どおり可決

令和8年第1回議会定例会及び第2回議会臨時会が開かれ、提出された議案を慎重に審議しました。今号では、主な審議内容を2つピックアップし、ご紹介します。

〈第1回議会定例会〉

## ふるさと応援寄附金 4、500万円を増額補正

ふるさと応援寄附金が予算見込みを上回ったことに伴い、寄附金収入4、500万円を増額補正するものです。

### ふるさと納税の状況 (令和8年4月6日現在)

年度	件数	金額
令和3年度	2229件	3,553万9,574円
令和4年度	1730件	3,113万1,500円
令和5年度	2838件	4,395万8,700円
令和6年度	7195件	1億2,427万2,000円
令和7年度	3278件	8,292万2,500円

※ふるさと応援寄附金は、約半分を返礼品や事務手数料等に、残りの半分は寄附の目的に沿って町の事業に活用されています。

〈第2回議会臨時会〉

## 災害時避難所に 授乳ブースなどを設置

国の令和7年度補正予算における地域未交付金(地域防災緊急整備型)を活用し、災害時の避難所として指定している農村環境改善センター・体育館と比布中央学校体育館の環境改善を行うため、470万円を増額補正するものです。

なお、農村環境改善センター・体育館には、乳幼児を持つ母親が安心して過ごせるよう授乳ブースの設置を行い、比布中央学校体育館では遮光カーテンを更新し、夏季の室温上昇及び冬季の室温下降を防ぎ、快適に過ごせるように機能向上を図ります。

### pickup2 議案第1号 令和7年度一般会計補正予算(第11号)



▲授乳ブース (イメージ)



▲遮光カーテン (イメージ)

## 傍聴者の声



議会を傍聴された方に、一般質問や審議などの感想やご意見をお聞かせいただきたくアンケートを実施しています。お寄せいただいたご意見の一部をご紹介します。

Q 比布町の駅に比布広報と一緒に議会だよりも置いてほしい。

A ご意見ありがとうございます。現在、比布駅に議会だよりを配置しています。お立ち寄り際には、ぜひご覧ください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。



# 社会福祉分野の予算配分と 事業者支援のあり方について

村中町長

## 官民が連携しながら本町の公共的 団体として活躍されるよう支援する



うえにし こういち  
**榎西 浩一 議員**

□質問・榎西議員

住民が必要なときに、それぞれの状況に応じた適切なサービスを受けられる体制を維持するため、社会福祉関連予算の配分をどのような考え方で行っていますか。

■答弁・村中町長

予算編成にあたっては、社会福祉分野に限らず公共の福祉の向上に資する事業について、各課からの予算要求内容を協議して予算案を決定しており、社会福祉関係予算については、町民の生活に直結する分野が多いことから、優先順位の高い分野であると考えます。

また、社会福祉法人は、本町に必要な公共的団体と捉えており、これらの事業者の皆様が地域のために、地域に密着した事業を展開いただくことに対しては、今後も支援を続けていきたいと思っております。

□榎西議員 支援は継続して行っているとのことですが、人件費が経営を圧迫しているのではないかと言われているようです。最低賃金が上がった時期と運営計画を立て始めた時期にズレがあることや介護保険の支給基準が追いついていないことに問題があるように思っています。そのため改善には相当な

時間が掛かることが予想されます。利用料金を物価に併せて上げられるような状況となって初めて正常化していくのではないかと思います。それが、それまで満額で補助する考えはありませんか。

■村中町長

運営費をすべて支援することは、経営改善に向けて努力をしていく道しるべにならないと感じます。基金が減っていくことに不安はあると思いますが、運営が困難な状態にならないように支援をする準備は整えたいと思います。

これまでの経営改善5年計画の中で収入も上がっておりますので、より良い経営となるように今後も話し合いをしていきたいと思っております。

□榎西議員 施設の大規模改修によって業務が効率化され、職員の負担軽減につながりますか。

■村中町長

大規模改修は、施設自体の老朽化への対応を図るとともに、入所者を第一に考えた改修であり、働く方にとってもより良い環境となるのが大切だと思います。

また、様々なデジタル技術を使った介護施設、設備、機器等もありますので、必要で効率的なものについては、積極的に導入してほしいと考えます。

□榎西議員 利用者のプライバシーに配慮した改修が大事だと言われていますが、介護職員の負担を下げるための大規模改修であることが必要だと考えます。

■村中町長

大規模改修が直接的な職員の負担軽減につながるものではないと思いますが、機器の導入により職員の負担を軽減し、より質の高いサービスが行われることを願っています。

□榎西議員

人材育成やICTの活用による効率化について、行政として関わっていくことは可能か伺います。

■村中町長

本町に介護施設が存在することは住民の安心につながり、さらに質が高く安心して暮らしている施設であることが、より安心感につながると思いますので、サービスの質もよく、素晴らしい職員が揃っていることが大切だと思います。

今回の大規模改修により、今後数十年単位で施設を維持し、安心して暮らしていける町にしていくしたいと思います。

社会福祉法人と町の新しい会議体も持ち、それぞれの質の向上とサービスの向上に努めていきたいと思っております。



# 公衆浴場の現在地での存続と今後の管理運営について

村中町長

## 公衆浴場に代わる新たなサービスの提供について引き続き協議を進める



遠藤 晴子 議員

□質問・遠藤議員

公衆浴場とは単に「風呂に入る」だけではない、さまざまな効果があります。誰でも風呂に入れる環境があるかないかで、身体的・精神的・社会的効能があるといえます。

2024年7月に税務住民課で行った「公衆浴場の利用に関するアンケート調査」では、毎日入る方がいましたが、誰もが「財政的には町も大変だが残して欲しい」との声が圧倒的でした。

民間事業所にもお願いしたいとの考えも聞いていますが、町民の入浴を考えた営業ができるのだろうか、とても心配です。

また、今回の公衆浴場でのレジオネラ菌の発生については、管理上の対策強化が必要ではありませんか。現在の場所に公衆浴場を残して欲しいという願いに対して町長の考えをお聞かせ下さい。

■答弁・村中町長

老人センターは建築から50年を迎え、公衆浴場も開業から40年近くが経過し、建物、設備ともに老朽化が進んでいます。ポイラー設備は製造から長い年月が経過しているため故障の際には部品の調達ができないものもあり、新たな設備に入れ替える場合には、多額の

費用が生じることになります。

これらのことから、令和6年7月に今後の公衆浴場のあり方について、公衆浴場利用者へのアンケート調査を実施したところです。

本町には、温浴施設・遊湯びつぷもあり、これらを総合的に判断すると、今の施設や設備が使用できるうちは、継続していきたいと考えてはありますが、将来にわたって今の場所でも公衆浴場を継続し続けること、また、新たに設置することも難しいと考えています。

しかし、費用対効果だけではなく、アンケート結果からも、公衆浴場を利用される方にとつては単に「入浴する場」ではなく、コミュニケーションを深める場であり、憩いの場でもあると認識していますので、福祉的な視点を取り入れた形での入浴サービス事業の構築ができないか、町内の民間事業者と協議を行つていきます。

また、昨年末にレジオネラ菌が検出され、約1ヶ月間休業することとなり、町民の皆様には、大変ご不便とご迷惑をおかけしました。営業の再開に際しましては、浴槽ろ過装置などの薬液洗浄を実施し、上川保健所からも現地指導を受けながら、最善の方法で進めさせていいただきました。管理業務については、日常清掃の徹底と併せて新

たな対策として、高濃度塩素による定期的な循環消毒などを実施します。

今後も、衛生管理には細心の注意を払いながら、町民の皆様が安心してご利用いただけるよう努めます。

□遠藤議員 町民にとつてのお風呂の意義は、健康増進と公衆浴場の維持、介護予防にもつながります。自宅に風呂があっても狭い、寒い、追い焚きができない等の理由で、十分な入浴が困難な町民に対し、清潔を保ち、健康を維持するための基本的な機会の提供を失ってはならないと思います。そして、温熱効果による健康促進、リラククス効果によるストレス軽減など、疾病予防や健康増進にもつながります。行政は未来への戦略的投資と捉え、これからも公衆浴場を地域共生拠点へと進化させる考えを持つてほしいと思います。

■村中町長

新たな施設を作ることや、大規模に改修をすることは難しいと思いますが、公衆浴場は地域コミュニティの上でも大切な施設ですので、公衆浴場に代わる施設については積極的に努力していきたいと思えます。



## 2040年問題の分岐点となる 2030年問題への対策は

村中町長

### 持続可能な行政運営を確立し その先の課題に対応できる基盤を整える



さとう よしひこ  
佐藤 良彦 議員

□質問・佐藤議員

2040年頃に「団塊ジュニア世代」が高齢者となり、生産年齢人口の減少や財政悪化などが深刻化するという「2040年問題」。

1985年は、10人の生産年齢人口で一人の高齢者を支えられてきた胸上げ型時代、2010年は2人の生産年齢人口で一人の高齢者を支えてきた騎馬戦型時代、現在は、生産年齢人口と高齢者のバランスが拮抗してきており、1人の生産年齢人口が「肩車」状態で高齢者を支えている社会状況になっていきます。

これらにより、行政、財政面では、社会保障費の増加と税収減少のダブルパンチで各自治体の財政を圧迫することは明白だと考えられています。本町でも、既に始まっている人口減少と財源縮小に対応するため、行政サービスの効率化と重点化が課題となります。

新庁舎建設に向けて目的に沿った複合的公共施設の導入や統廃合などを念頭に、多機能化によるコスト削減、デジタル技術の積極導入による業務効率化を進め、限られた資源で質の高い行政サービスを維持する改革が求められます。

行政サービスの効率化と重点化の観点から、どのような取り組みをされるのか伺います。

■答弁・村中町長

2040年問題については、生産年齢人口の減少と高齢者人口の増加により、労働力と税収の減少、社会保障費の増加が同時に進むことが見込まれており、本町も人口減少は避けることができない状況であり、今後の財政運営にも大きな影響が及ぼされることが想定されます。

ご指摘のとおり、2030年前後は、人口構造の変化と公共施設の更新時期が重なる大きな転換点であると認識しています。この局面においては、財政規律の健全性を保ちながら慎重に対応することが重要であると考えます。

公共施設の統廃合については、建設から65年が経過し、耐震性の不足や老朽化などの課題を抱えている役場庁舎と同様に、更新時期を迎えている他の公共施設と合築し、複合庁舎として効率的に集約することを計画しています。

建設に際しては、国や北海道の補助制度や有利な起債の活用を前提としつつも、ご指摘のとおり、財政が縮小することも想定し、将来負担を十分に見極めながら慎重に判断する必要があると考えます。

行政サービスの効率化と重点化については、人口減少社会において持続可能な行政運営を確立する

ためには、すべてを従来どおり維持するのではなく、住民ニーズを丁寧分析し、真に必要な分野へ資源を重点的に配分する体制への転換が必要であると認識しています。

あわせて、デジタル技術の活用による業務の効率化をさらに進め、生成AIを含むデジタル技術の導入により、内部事務の効率化を図るとともに、デジタルが不慣れな方にも配慮しながらオンライン申請や窓口業務のデジタル化も推進し、労働力の減少に対応するため業務負担軽減と住民サービスの向上を目指します。

また、一つの自治体で全てを行う行政のフルセット主義については、圏域での自治体間で連携することにより行政サービスを維持していくことも検討が必要と考えます。

2030年問題への対応は、身の丈に合った持続可能な行政運営を確立することと考えており、その先にある2040年の課題に対応できる基盤を整える大切な期間であると考えます。

今後も財政状況や国の制度動向に注視し、皆様のご意見を踏まえながら、持続可能な行政運営をめざして力を尽くします。



# 令和8年度町政執行方針の 農業政策を問う

村中町長

## 農業者や生産団体との懇談の場を設け 課題解決に向けた方策を研究する



やまぎ よしひろ  
八巻 良博 議員

□質問・八巻議員

令和8年度町政執行方針が示され、職（しごと）、働く人を応援するまちづくりの初めに農業政策を掲げられたことは、農業が比布町において大変重要な産業であることを示し、大変心強く感じています。

今回示された政策においては、スマート農業、農地の集積・集約化、多様な人材の確保などが示されていますが、国の示した政策と差異はないと思われまます。

また、今年の米価は昨年と比べて暴落するのではないかと予想もあり、米生産地として正念場となる年になりそうです。青果、畜産もさまざまな問題を抱えています。

選挙で公約された経営面積の小を問わない農業振興補助策等も含め、町長が考える独自の政策はどのようなものになるのでしょうか。

■答弁・村中町長

令和6年度に農業者の皆様のご協力をいただき実施しました「農業振興に関する意向調査」の回答では、物価高騰や気候変動に伴う高温障害、繁忙期の労働力不足などの課題を抱えており、また、省力化や環境配慮、農地整備など現状の営農活動への支援と、将来の地域農業に向けた環境整備への支援など、多様な施策が求められています。

現在進めている農業振興策は、本町農業の総合的な発展を図り、もって農業者等の生活水準向上と活力ある地域農業の推進を図ることを目的とした「比布町農業振興条例」に基づき進めているところです。町独自の支援策は、経営面積の大小を問わず、農業者等の意向に配慮することを目指し導き出しているものであり、国の政策と差異がないことは同じ方向であると考えます。

令和4年の農業振興についての一般質問の際は、町独自に、農地流動化促進対策事業や青果物等作付拡大、畑作物振興などへ支援を講じていることを答弁しました。

現在は、農地流動化促進対策事業などに加え、加速化するスマート農業技術導入や環境に配慮した取組みの支援策として「持続可能型農業支援事業」や、青果物等において、拡大要件を撤廃したほか、気候変動に伴う新たな栽培体系や新しい品種・作物導入などへ支援しています。

引き続き、農業者や生産団体との懇談の場を設け、それぞれの課題を洗い出し、解決に向けた方策として国の支援事業を研究するとともに、町独自の支援策は、きめ細やかにスピード感と柔軟性をもち、時代や営農活動の変化に対応できるように進めます。

□八巻議員 本町の農業は米が中心で、機械の大型化や価格高騰により新規参入のハードルが非常に高くなっています。将来の担い手不足が懸念される中、既存農家の施設や機械、土地を貸し出す仕組み、町独自の支援策などは検討できないでしょうか。

■村中町長 水稲は初期投資の大ききから新規就農のハードルが高いと思いますが、農業に携わっている方が中心となり、役場が後押ししていくような形が理想だと思えますので、地域おこし協力隊制度の活用や、受け入れていただく農家の方のご協力もいただきながら進めていきたいと思えます。

□八巻議員 高齢化や離農により、手入れが難しくなった小さな畑やハウス跡地が町内でも散見されます。こうした土地を町民農園として活用できる仕組みを作っていたきたいと思えますが、町長の考えを伺います。

■村中町長 有効に活用されることは素晴らしいことだと思いますので、学校の授業や社会教育事業など、農業だけでなく社会教育としても活用できないか検討していきたいと思えます。

# 令和 8 年度各会計予算審議

令和 8 年度各会計予算は、議長を除く議員 8 人で構成する予算特別委員会（委員長：今井明信副議長）を設置し、3 月 10、11 日に審議を行いました。

委員会では各委員から事業に対する質疑や意見などが出され、活発な議論が展開されました。

定例会最終日の 3 月 12 日に今井委員長から委員会における審査結果の報告があり、原案のとおり可決しました。

## ■令和 8 年度会計別予算■

会計区分	本年度予算額	前年度予算額	増減
一般会計	44億5,500万円	44億3,700万円	0.4%
国民健康保険特別会計	5億2,612万円	5億2,012万円	1.2%
後期高齢者医療特別会計	1億466万円	8,203万円	27.6%
介護保険特別会計	6億3,250万円	6億2,500万円	1.2%
観光事業特別会計	1億7,990万円	2億4,015万円	▲25.1%
簡易水道事業会計	2億7,387万円	3億311万円	▲9.6%
公共下水道事業会計	1億3,556万円	1億938万円	23.9%
合計	63億761万円	63億1,679万円	▲0.1%

### 町税増収の分析と活用方針

（植西委員）

Q 町税が大幅に増えている理由の分析と、伸びている分野（農業等）へ重点的に再投資して、さらなる増収につなげる考えはないか。

A 増収は主に米価の影響による農業所得の伸び等を試算したものの、税は一般財源であるため、特定分野への還元ではなく「公共の福祉」のために全体を見て配分するのが原則だが、基幹産業である農業の担い手育成などは重要な投資対象と考えている。

### グリーンパークびっぶの運営

（佐藤（良）委員）

Q パークゴルフ場やキャンプ場の利用者を増やしていくためにも、専門の方に現在の施設に何が足りないのか、何が必要なのかをしっかりと検証してもらうなど、より良い施設運営を行う意識をもってほしい。

A 民間のノウハウや知恵をお借りすることも非常に重要だと思っている。新年度はプロの方の目をお借りすることも検討していきたい。

### グリーンパークびっぶの使用料の値上げを

（八巻委員）

Q 施設の維持管理費が相当かかっている。パークゴルフ場の管理状況も良好であるため、使用料の値上げを検討してはどうか。

A 使用料は、近隣町と比較しても適正な金額だと思う。昨今の物価高騰等を考えると値上げを検討する時期に来ていると思うが、まずは今後の施設運営をどうしていくのかを考えていくことを優先したい。



▲グリーンパークびっぶ

### 指定寄附金の予算計上額について

（谷口委員）

Q 令和 8 年度の予算額は実績に比べて低すぎないか。民間企業のように高い目標を掲げるべきでは。

【A】予算編成上は、他の事業に影響があるため確実な数字を計上している。実務上は昨年度実績を超える金額を目指して努力する。

交通安全指導員の  
負担軽減を  
(大熊委員)

【Q】交通安全指導員の人数不足により、交通安全期間における朝の立哨の負担が大きいと感ずる。場所や出席日数を減らすなどの検討を行っているか。

【A】指導員一人ひとりの負担が大きくなっている。指導員と立哨する必要がある場所の協議を行い、場所の変更も行っていき



▲比布町交通安全指導隊視閲式

複合庁舎建設に対する  
考えは  
(谷口委員)

【Q】第2回住民説明会の時期や、一部機能（消防・保健センター）のみを先行して建設する考えはあるか。

【A】補助金等の財源の裏付けが取れ次第、速やかに説明会を開催したい。現在は基本設計通りの建設を第一に考えており、他案は検討していない。



▲複合庁舎建設 第1回住民説明会

竹細工後継者の地域おこし  
協力隊について  
(谷口委員)

【Q】募集人数は几名か。前回の事例を踏まえ、どのような方針で採用を進めるのか。

【A】募集は1名。今回は竹細工の現場と既に関係性があり、技術継承への意欲も確認できている

人物を推薦等を通じて受け入れる方向で進めている。



▲千鳥笹を使った竹細工

職員採用の課題と人事交流  
の考えは  
(植西委員)

【Q】民間の内定辞退率が高まる中、町の採用計画はどうなっているか。また、国の出向者受け入れなどの人事交流を専門知識の導入や活性化に活かせないか。

【A】昨年度は採用予定者の辞退はゼロだったが、採用環境の厳しさは認識しており、テストセンター方式の導入や町の魅力発信を強化する。人事交流についても、職員のスキルアップや情報収集の観点から前向きに検討したいと考えている。

冬期間の交通安全と街路  
樹の管理を  
(植西委員)

【Q】交差点付近の街路樹が排雪の妨げとなり、雪山で視認性が悪く危険である。安全確保のため、視認性を遮る樹木や老朽化した樹木を撤去できないか。

【A】雪による視認性の悪化は把握しており、安全確保は必要と考えている。特定の樹木が支障となる場合は、警察や関係部署と協議の上、撤去も含めた対応を個別に検討・判断していく。

除雪サービスマスターのポラン  
ティアについて  
(大熊委員)

【Q】ポランティアの中高生と高齢者事業団の作業員が一緒に除雪サービスに取り組む姿は、世代間交流や地域コミュニティの形成につながり大変有意義であると感じる。このような地域を支える活動を拡げていけないか。

【A】今回の取り組みを通じて、一定の世代間交流は図られたと考えている。町内のポランティア意識の向上を図るため、社会福祉協議会とも話し合いを行いたい。



▲除雪有償ボランティア

**びっぷクリニックとの連携による予防（佐藤良委員）**

**Q** 今後は、病気の治療を行い、その後の予防に対する評価が診療報酬に加算されていく体系になっていく。びっぷクリニックと行政の中で、予防の取り組みについて考えていることがあれば教えて欲しい。

**A** 後期高齢者健診について、令和8年度はびっぷクリニックにお願いする部分を増やしていく。また、結果通知を活用して、町民の皆さんに生活習慣の見直し等をお話する機会につなげていきたい。若い方も随時クリニックでがん検診などを受けていただけるため、積極的に周知したい。院長とは随時、町の健康課題の共有や相談をさせていただいている。

**障害者自立支援給付費について（佐藤良委員）**

**Q** 障害者自立支援給付費の住所地特例による負担が大きくなっていると思う。事業者の人材不足などに起因する面もあると思うが、他市町の施設に行く理由などをしっかり把握するなど、事業者への指導と併せて情報共有を図ることが必要ではないか。

**A** 施設自体が法令に違反している訳ではないため指導することは難しく、事業者の考えも尊重しなければならぬが、様々な情報を共有し、話し合いを行っていくことは可能と考える。

**社会福祉協議会の事務局長採用と事業展開（遠藤委員）**

**Q** 事務局長を新たに採用することで、どのような事業展開や効果を期待しているのか。

**A** 令和9年度に向けた新事業の検討に加え、まずは外部委託していた「生活支援コーディネーター」業務を社協に戻し、相談業務や高齢者訪問を強化する。このことにより地域課題を把握し、町民とのつながりを深めて在宅生活を支える体制を構築することを目指す。

**中央ふれあい広場のPR（八巻委員）**

**Q** 昨年オープンした中央ふれあい広場は、町外から多くの家族連れが利用しているため、比布町の子育て施策や保育園・義務教育学校などの教育環境をPRするなど、移住につながる取り組みはできないか。

**A** 非常に多くの方にご利用いただいている。まだ正式ではないが、土日に保育園の内覧会や義務教育学校の開放、宅地造成地へのご案内を実施するなど、若い世代の移住定住に向けたPRを行いたい。



▲中央ふれあい広場

**いちご振興法人の設立について（澁谷委員）**

**Q** いちごの振興のため、法人を設立するということが、規模や農協との関わり、協力隊の活用など、詳しい内容を知りたい。

**A** 令和6年のいちご狩りにおいては、農園数の減少に伴う定員オーバーや早期閉園などの課題が浮き彫りとなった。令和9年はさらに農園が2軒減少する見込みであり、町内経済への波及効果を維持しつつ、受入体制の悪化を防ぐため、町主導による新たな法人の設立を計画している。

まずはいちご狩りから開始し、将来的には「高設栽培」への挑戦や、収益確保のための他事業展開も視野に入れている。農業を営むための法人化を進め、農協からの技術指導を受けつつ、社員に「地域おこし協力隊」の委託制度を活用する方針を考えている。

**いちご振興法人の設立について（今井委員）**

**Q** なぜこれまでの民間支援だけではなく、町が出資する法人を設立し、「公営」でいちご振興

を行う必要があるのか。既存農家への支援はどうなるのか。

**A**生産者の減少や収穫量の低下といった厳しい現状を打破し、「いちごの町」を維持・発展させるための新たな挑戦となる。既存農家への苗購入費助成などの支援は今後も継続するが、それだけでは新規作付者が増えず、収穫量不足による単価下落に陥っている。

町が出資する法人を設立することで、いちご栽培技術者の支援をいただきながらコミュニケーションの場を創出し、行政の枠を超えた自由なイベント展開などを通じていちごの魅力を再興する。民間任せにせず、町民みんなの会社として生産者と共に歩む体制を整えることも狙いのひとつとしている。



▲真っ赤に彩る「ぴっぷいちご」

### 空き家の適正管理について

(佐藤(良)委員)

**Q**町内の空き家で除雪がされていないなどの状況があるが、所有者と連絡がとれるようになっていないのか。古い情報であれば再度精査を行うべきと考える。

**A**管理が行き届いていない場合は基本的に所有者に連絡し、対応をお願いしている。連絡先の情報が古くなっていく状況もあるので再度確認していく。

### 町道の街路樹について

(谷口委員)

**Q**冬場の除雪や景観、通学路の安全を考えれば、植樹樹の穴埋め補修ではなく全て撤去すべきではないか。

**A**撤去を望む声は多いが、景観維持を求める意見もある。まずは危険箇所の対応を優先し、住民の意見を聞きながら丁寧に進めていく。

### 住宅リフォーム補助事業の予算と運用

(遠藤委員)

**Q**希望者が多く抽選になっている住宅リフォーム補助について、移住・定住を促進するため

にも予算を増額できないか。

**A**町独自の事業として非常に人気があるが、全希望者を受け入れると町財政の大きな負担となるため、現在は抽選制としている。財源に限りはあるが、町としていつまでも住み続けてもらえるよう、バランスを考慮しながら継続していく。

### ドクターヘリ・ドクターカーの運用状況

(遠藤委員)

**Q**ドクターヘリの出動件数が減少傾向にある理由と、ドクターカーの活用状況はどうか。

**A**運航開始から15年経過していく中で、症状によっては「現場に医師が行く」ことより「早く病院に着く」ことを優先する判断が平準化されたため、件数は落ちている。天候不良時や多数の傷病者がいる際はドクターカーも併用し、活用していきたい。

### 住宅用火災警報器の交換と設置場所について

(遠藤委員)

**Q**設置から10年が経過する警報器の交換目安や、家族構成の変化(寝室の移動など)に伴う適切な設置場所の指導をしてはどうか。  
**A**設置から「10年」を目安に本

体ごと交換し、誰がどこで就寝しているかを最優先に設置場所を見直してほしい。就寝中の逃げ遅れを防ぐため、寝室や階段への設置が義務付けられているが、家族構成の変化により寝室を移動した場合は、警報器も併せて移設や増設を検討することを推奨する。

### 中央プールの暑さ対策の状況は

(大熊委員)

**Q**近年の猛暑により、中央プールでも暑さ対策が必要になっていると思うが、どのような対策を行っているのか。

**A**網戸を設置し、クローズの時間帯には防犯対策を講じた上で窓を開け、網戸をした状態で夜から朝にかけて暖かい空気を抜く対策をしている。日中暑くて営業ができない日はなかった。



▲町民水泳教室

## 学校給食事業について

(八巻委員)

**Q** 現在、学校給食用に農協からお米の贈呈を受けているが、新年度は給食費を無償とすることや米価高騰の影響により、同様の動きになるのか。また、地元野菜等を寄付していただける方の掘り起こしも行ってはどうか。

**A** 給食費は国の支援額と現状の金額の差を町が補填する。給食の質は落とさないように給食費をどう設定するかが課題となる。現在も地元の農家から野菜をいただくことがあるが、まとまった数量が必要となるため、支援をお願いするのは難しいと考える。



▲比布産とうもろこしの学校給食

## ▽総括質疑

### 教育環境の整備と

まちづくり (大熊委員)

**Q** 比布町はこれまで補助金や無償化だけでなく、町独自の教員採用や「学校法人田田中学園」との連携強化など、教育の「質」を高める先進的な取り組みを行っている。こうした教育環境の強化が、町の未来やまちづくりにどのような影響を与えると捉えているか。

**A** 本町では、情熱ある教育長のリーダーシップにより、管内に先駆けて義務教育学校(比布中央学校)を設置できたことが大きい。今後は「公立義務教育学校の名門」や「世界一の学校」を目指し、卒業生が世界へ羽ばたいても、一生町を応援してくれる「最大の関係人口」になると信じている。

### ゼロカーボンシティと 太陽光発電規制を (遠藤委員)

**Q** 農地や自然を守るため、太陽光発電を規制する条例を作る考えはないか。全国では、小規模に分割して申請する悪質な業者の手口や、住民説明会を軽視す

る事例が報道されている。すでに全国の多くの自治体で規制条例が定められているが、比布町の今後の姿勢を問いたい。

**A** 新しく策定した「地球温暖化対策推進実行計画」において、「町民の理解が得られず、町の活性化に還元されない取り組みは推進しない」と明記した。現時点で条例化は検討中だが、この計画をもって「町としては歓迎しない」という態度を明確にしており、適切に対応していく。

### 高齢者・障がい者支援と社会福祉協議会の役割 (佐藤(良)委員)

**Q** 令和8年度から事務局長を迎え「新生社会福祉協議会」がスタートするが、町長が新体制に期待する具体的な役割は何か。また、障がい者に対する理解啓発や権利擁護について、どのような具体的なイメージを持っているのか。

**A** 社協には、行政を補完するだけでなく、行政では手が届かないきめ細かな対応や、困りごとの「最初の相談窓口」になることを期待している。障がい者支援については、イベントでの車椅子体験などのほか、過去に町で開催された障がい者スキー大

会のような機会を大切にしたい。



▲イベントでの「車椅子体験」

### 連携中核都市圏構想の 活用と地域課題 (植西委員)

**Q** 旭川市を中心とした「連携中核都市圏構想」をフル活用し、近隣自治体と公共施設や施策を共有することで、これらの課題を解決し住民の幸福度を上げられないか。

**A** 全ての行政機能を自前で揃える「フルセット行政」は限界に来ており、スポーツ施設の相互利用や、消防指令設備の旭川市との共同整備など、広域連携を強化している。近隣で連携して不足を補い合う仕組み作りは不可欠だと考えている。

# 常任委員会 調査レポート

総務常任委員会（2月25・26日開催）、産業建設常任委員会（3月2日開催）がそれぞれ開かれ、所管分野に関する課題等について調査を行いました。今号では、主な内容をピックアップし、ご紹介します。

**Q**…委員からの質疑  
**A**…担当からの回答

## 教育課 学校給食費の 負担軽減へ

令和8年度に国の施策に伴い前期課程の給食費が無償化されます。これに合わせ、町独自の措置として国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、後期課程についても保護者負担を实质ゼロとする方針が示されました。

**Q** 令和8年度は臨時交付金により負担が軽減されるが、それ以降は再び保護者負担に戻る見込みか。今後、継続的な支援のために財源を捻出する努力や具体的な検討予定はあるか。

**A** 国は小学校（前期課程）の無償化方針を示しているが、中学校（後期課程）については未定となっている。町とし

ては、国の方針を期待しつつ、財源の確保についても模索していきたいと考えている。

## 教育課 学校部活動の 地域展開がスタート

教職員の働き方改革と持続可能な活動環境のため、部活動の地域展開が進められます。令和8年度は剣道部が先行して展開され、吹奏楽部やソフトテニス部、卓球部などは令和10年度末までに展開を目指します。



▲剣道部君の夢プロジェクト  
(北海道警察機動隊)

## 教育課 図書館の開館日と 時間の見直し

利用者の声を受け、令和8年度より日曜日の開館を再開する方向で調整が進んでいます。一方で、利用が少ない祝日は休館とし、土・日の開館時間を午後5時までとする方向で検討が進められています。（6月頃からの運用開始を予定）。



▲ひろがり文庫  
「クリスマスよみきかせ会」

## 保健福祉課 比布町福祉・介護連携 推進協議会を設置

地域福祉を支える2つの社会福祉法人と町が連携し、介護事業所間の運営及び連携強化を図ることなどを目的とした新たな協議会を4月に設置します。

**Q** 人手不足の中、町外から通勤する介護職員も増えている。現在、資格取得支援は町民限定だが、町外居住の職員も対象に含めることを協議会で検討できないか。

**A** スキルアップに前向きな職員が増えており、大変心強く感じている。資格取得は「加算」などの面で施設運営にもプラスになるため、協議会を通して、ご意見を精査しながら今後の政策につなげていきたいと考える。

農林課  
株式会社ぴっぷいち  
令和8年4月設立へ

いちご栽培の振興と観光農園の維持を目的とした法人の設立計画が示されました。

【設立の背景】生産者の減少や収穫量の低下といった現状を打破し、「いちごの町」を維持・発展させるため町が出資して法人を設立します。

【運営体制】代表取締役には副町長が就任し、社員として地域おこし協力隊を採用予定。町職員の派遣も可能にする条例改正が行われます。

【事業内容】農産物の生産・販売、観光農園、加工品及び商品開発、技術の普及啓発など。まずは、いちご振興に絞った事業内容としてスタートします。

商工観光課  
生活応援商品券  
1万5千円を給付

物価高騰対策として、令和8年1月末時点で住民基本台帳に登録がある方を対象とした商品券（一

人当たり1万5千円）の配布状況と利用について協議されました。

Q 近隣町では「自治体ペイ（電子地域通貨）」の導入が進められている。事務経費の削減などを考慮した場合、現状と自治体ペイのどちらがより有用と考えるか。また、導入に向けた検討は行われているのか。

A 今回の商品券事業は臨時交付金を活用したものであり、自治体ペイの導入は想定していなかった。今後、自治体ペイを導入する場合には、比布商工会とも協議を重ね、本事業に限らず、町全体として必要性があるのか慎重に検討する。

商工観光課  
グリーンパークぴっぷのあり方を再検討

パークゴルフ場やキャンプ場について、利用者の減少やクマ出没による影響などを受け、施設の今後の運営について協議が行われました。

Q 例えば、キッチンカーを呼んで集客を図るということを提案として出されたことはあるか。

A 過去のイベント時に呼んだことはあるが、その際は天候の影響もあり集客に苦慮した経緯がある。現在、パークゴルフ場利用者の多くは午前中に帰宅される傾向があり、利用される方の時間帯と、提供するタイミングが合わないことが想定される。一方、キャンプ場では利用の可能性があるため、適切な運用について検討する。



▲グリーンパークぴっぷ「キャンプ場」

建設課  
上下水道料金の改定を検討

人口減少と施設の老朽化に伴い、将来にわたって安定したサービスを維持するための「経営戦略」が示されました。

現在、比布町の水道料金は近隣自治体の中でも安価ですが、運営費用を料金収入でどれだけ賄えているかを示す「料金回収率」について、10年後には低下することが予測されています。そのため、料金改定も含めた経営戦略が計画され、提案されました。

Q 天然水やペットボトル飲料の普及が進む中、改めて水道水の信頼性を高めることが大切ではないか。また、古くなった設備の更新について、国などの補助金をしっかり活用し、皆さんの水道料金へ跳ね返らないように利用者目線に立った計画をお願いしたい。

A 料金が上がらないことはもちろん理想ですが、水を安定して供給するために、財政とも協議を行い、決断していきたい。

# 福祉の最前線、

意見交換会「議会と話そう」開催

# あそか苑を訪ねて



令和8年2月13日、介護現場の声を聞き、政策に活かすことを目的に特別養護老人ホーム「あそか苑」を訪問しました。議員9名が施設見学を行い、職員14名と意見交換を行いました。  
ご参加いただいた職員の皆様、ありがとうございました。



## 施設見学を通じて

老朽化が進む浴室やトイレ、居室等の見学をしました。職員の皆様は限られた設備の中で、利用者が少しでも快適に過ごせるよう細やかな工夫を凝らしていました。

改修が必要な箇所の現状を議員全員で共有し、今後の改修計画の進捗を議会としてもしっかりと注視していく決意を新たにしました。



▲施設内見学（左：浴室 右：特殊浴室）

## 現場の現状と変化

現場では、研修等を通じた職員の意識向上が図られており、サービスの質の向上に向けた取り組みが進められていました。

また、年間休日を従来の98日から110日に増加させるなど、労働環境の改善が進んでいます。

さらに、職員同士が普段から声を掛け合い、チームワークを大切にされて業務に励む姿に大きな感銘を受けました。

加えて、経験豊富な町外職員の増加により、多様な視点やノウハウが現場に取り入れられ、より良い支援体制の構築が進められています。



## ICT・機器導入

iPadやベッドセンサーの活用により、夜間の見守りや情報共有が効率化され、離職率の低下にもつながっています。しかし、それでも入浴業務の負担は重く、さらなる適正配置や設備改善が求められています。

## 食事・利用者の楽しみづくり

施設では、手作りの温かい食事の提供に努めるとともに、入所者一人ひとりの嚥下能力に合わせた食事形態に配慮し、安全で安心な食事環境の充実を図っており、利用者本位の姿勢に感銘を受けました。

また、コロナ禍で減ったレクリエーションを回復させ、入所者の生活の充実につなげていきたいという想いを伺いました。



## 地域とのつながり

施設では、仮装盆踊りや雪だるまコンクールなど、地域行事への参加などを通して住民との交流を図り、地域に開かれた運営に努められています。

また、デイサービスの体験会や見学会などを通じて、新たな利用者の確保につなげたいとの声も上がりました。

## 施設の将来像

現場からは、外国人人材の受け入れや、職員の専門性を高め、サービスの質を維持・向上させるための資格取得費用の公的助成の必要性について声が上がりました。

さらに、老朽化した厨房・浴室・トイレの改修や、近年の猛暑に対応するエアコン増設を望む声も上がり、利用者・職員双方にとって安全で快適な環境が必要不可欠だと感じました。

2040年の高齢者人口のピークを見据え、効率的な運営体制を構築するとともに、職員の皆様からは地域に開かれた施設づくりを進め、住民の皆様にも親しまれる場所を目指したいという熱い想いを伺うことができました。

## 議会としての今後のアクション

① 予算・制度への反映  
大規模改修計画の進捗を確認し、必要な予算措置について質疑を通じて検討します。

② 人材確保・資格取得支援  
人材確保と育成支援の在り方について、町制度も含め議論します。

## 参加者アンケートの結果

満足度 92%

「自分たちの声が届いていると感じ、励みになった」との声をいただきました。

## 議会への期待

参加者の多くが「議会を傍聴したい」と回答。透明性の高い議会運営に努めます。

## ご協力ありがとうございました 参加者インタビュー

議員の皆様と「議会と話そう」というテーマのもと、比布町に住みやすいまちづくりや、町にどのようにして人を呼び込むことができるかなど、様々な「比布町の将来」について、気軽に話せる雰囲気の中で意見交換をさせていただきました。環境づくりや交流・集客のあり方について幅広い意見が交わされ、大変有意義な時間となりました。

今後は、より多くの町内外の皆様にもぜひ参加していただき、意見交換を重ねることで、「比布町のさらなる発展」につながっていくことを期待しております。

介護主任

あんざい みつよし  
安齋 実芳 さん



「議会と話そう」に参加させていただき、ありがとうございました。

比布町議会議員の皆様とお話するのは初めてでしたが、様々な意見交換を行うことができ、大変有意義な時間となりました。

今後も、議会ならびに役場の皆様と連携・協力しながら、比布町の高齢者福祉の充実と発展に取り組んでまいりたいと、改めて感じております。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

介護副主任

もり あきのり  
森 彰範 さん



# 比布中央学校6年生が議会に提案 「比布町の未来づくり」

毎年恒例の子ども議会での提案は、とても新鮮で楽しくなるものが多いです。

今年は、比布町のカントリースサインにもある「スキーといちご」が主なテーマだったように感じました。そして、それらをアピールするにはどのような方法があるのかを具体的に提案していただきました。また、買い物場所についての現状、さらに子ども子育て支援についても提案がありました。

これから比布町の未来を創っていく子どもたちの提案実現に向けて、大人にながでできるのか、議会の中で取り上げてみようと思います。

ご提案いただいた6年生の皆さん、ご指導いただいた教職員の皆さま、ありがとうございます。

(植西 浩一)



## 子ども議会提案内容

### 1班 子ども支援・子育て支援

子ども支援を充実させ、子育て世帯が住みたいと思える町にするために、子育てボックスや子育て施設の導入などの取り組みが紹介されました。



### 2班 オリジナルグッズの販売

比布町の魅力をさらに発信するため、オリジナルグッズを増やす提案があり、いちごちゃんをモチーフにしたハンカチやエコバック、キーホルダーなどのグッズが提案されました。



### 3班 特設の特産品売り場の設置

比布町の特産品をスキー場に集めて紹介することで、観光客に町の魅力を知ってもらう取り組みが提案されました。設置場所は、多くの人の目に留まりやすいお菓子コーナー入口付近がよいのではないかと提案がありました。



### 4班 スキー場の活用

スキー場にぎわいづくりに向け、幅広い世代が楽しめる冬の大会の開催が提案されたほか、サマーゲレンデや花畑の整備など、夏の活用方法や廃止リフトを活用したジップラインについて紹介されました。



### 5班 新しい特産品の販売

新しい特産品を開発し、比布町に人を呼び込む取り組みが提案され、メロン飴やいちごソーダ、メロン大福などの商品アイデアが紹介されました。

